

生誕120年

『てぶくろ』の画家ラチョフと民話絵本の世界

<同時開催>ちひろ いつもとなりに ― 子どもと動物 ―

2026年3月1日(日)～5月10日(日)

ちひろ美術館・東京 展示室1・2

主催：ちひろ美術館

協力：Vladimir Turkov、岩波書店、偕成社、福音館書店、
日本ロシア語情報図書館後援：絵本学会、(公社)全国学校図書館協議会、(一社)
日本国際児童図書評議会、日本児童図書出版協会、
杉並区教育委員会、西東京市教育委員会、練馬区

1
エフゲーニー・ラチョフ
『てぶくろ』(福音館書店)より
1950年



「わたしは動物の絵をかくのが大好きです。

わたしは動物に洋服を着せたり、

ステッキを持たせたりと、人間のような性格を与えています。

各々の動物に人間的なイメージを重ねて見るのが好きだからです。

キツネにはずる賢さ、クマには人の良さなど……。

そうした想像をしながら絵をかくと、

楽しくて楽しくて時のたつのを忘れてしまいます。」

エフゲーニー・ラチョフ 1990年(84歳)

『ねことつぐみとおんどり』(宮川やすえ 訳/学習研究所(学研)、1990年) あとがきより

エフゲーニー・ラチョフ
Евгений Рачёв
(1906-1997)

ロシアのトムスクに生まれる。幼少期を自然豊かなシベリアで過ごし、野生の動物に親しむ。1928年にクバン美術師範学校を卒業、翌年キーウの出版社で、挿し絵を描き始める。同時期にレーベデフやエフゲーニー・チャルシンの絵本に出会い感銘を受ける。1936年、モスクワの児童文学出版社の招致を受けて移住し、以後精力的に動物絵本の制作に取り組むようになる。第二次世界大戦従軍を経て、戦後、動物たちに人間的な性格を重ねた表現を取り入れた民話絵本を次々に発表。代表作に『てぶくろ』『マーシャとくま』(ともに福音館書店)『まほうの馬』(岩波書店)など。

ウクライナ民話絵本『てぶくろ』で知られるロシアの画家エフゲーニー・ラチョフ(1906-1997)は、リアルな動物たちに民族衣装を着せ、人間の性格を巧みに重ね合わせた独自の動物民話を数多く描きました。代表作である『てぶくろ』は、日本では1965年に内田莉莎子の翻訳で刊行されて以来、世代と国境を超えて子どもたちに読み継がれています。2022年にロシアがウクライナへ侵攻し、今なお戦争終息の兆しが見えないなか、『てぶくろ』は、ウクライナという国を身近に感じる絵本、共生と平和を考えるきっかけとなる絵本として、改めて注目されています。本展では、生誕120年を記念して、ロシアとウクライナ、ふたつの国に暮らし、その生涯を子どものための絵本に捧げたラチョフの全コレクション作品を展示します。

あわせて、ラチョフが生きた、ふたつの大戦と革命、世界初の社会主義国家の誕生と崩壊という激動の時代のロシアの絵本の歴史をひもとくとともに、ちひろ美術館コレクションのなかから、色あせない魅力を放つ東スラブの民話の世界を紹介します。

展覧会の見どころ

①およそ 30 年ぶりの開催 ラチョフのコレクション全 32 点が一堂に！

ちひろ美術館は、ロシア国内を除き、ラチョフのまとまった作品を有する唯一の美術館です。1998 年の追悼展以来、28 年ぶりのラチョフ展となる本展では、立体作品を含むラチョフのコレクション全 32 点を一堂に展示します。



2 エフゲーニー・ラチョフ
ロシア民話「マーシャとくま」 1965年



3 エフゲーニー・ラチョフ
ロシア民話「つばのおうち」 1959年



4 エフゲーニー・ラチョフ
ロシア民話「つるとさぎ」 1965年

②ウクライナ民話絵本『てぶくろ』から、ラチョフの動物民話の魅力に迫る

おじいさんが落とした手袋で暮らすことにした、くいしんぼねずみ。すると「ぼくもいれて」「わたしもいれて」と、はやあしうさぎ、おしゃれぎつねたちが次々にやってきて……！？ ラチョフの代表作である絵本『てぶくろ』は、日本でも 1965 年の翻訳出版以来、子どもたちからの絶大な支持を得て、国内の発行部数は 330 万部を超えています。本展では、『てぶくろ』の絵本原画 6 点と未収録のラストシーン 1 点を展示。ラチョフの動物民話の魅力に迫ります。



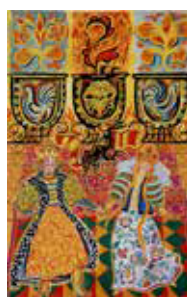
絵本『ウクライナ民話 てぶくろ』
(内田莉沙子 訳／福音館書店、1965年)

③ちひろ美術館コレクションでめぐる民話絵本の世界

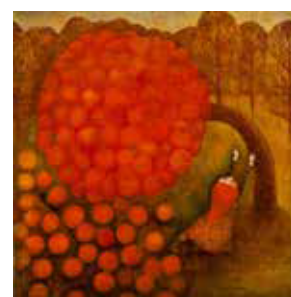
ふたつの大戦と革命、世界初の社会主義国家の誕生と崩壊。ラチョフは激動の時代を生きた画家でした。展示室 2 では、ロシアの絵本の歴史をひもとくとともに、ちひろ美術館コレクションのなかから、東スラブの民話の世界を紹介します。困難な時代のなかにあっても、自らの表現の道を模索し、絵本を通して子どもたちに豊かな文化を伝えたいと願った画家たちの活動にご注目ください。



5 タチャーナ・マーヴリナ
狼に乗って空を飛ぶイワン王子 1950年



6 ヴィクトル・ドゥヴィードフ
『せむしのこうま』より 1991年



7 出久根育 『マーシャと白い鳥』
(偕成社) より 2005年

出展作品数

エフゲーニー・ラチョフ 作品 32 点と資料
ちひろ美術館コレクション画家 約 30 点と資料（予定）

図版について

本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。

ご希望の方は、別紙「広報用作品画像データ貸出依頼書 兼 借用誓約書」をご覧ください。

※必ず絵のそばに作家名・作品タイトル・制作年を明記してください。※トリミングや文字が絵にかかるようなレイアウトはご遠慮ください。

※データ等チェックのため、校正段階で原稿をお送りください。※掲載紙／誌をご送付ください。



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

ちひろ美術館・東京

chihiro.jp



お問い合わせ

広報担当 松方・原島・北村

〒177-0042 東京都練馬区下石神井 4-7-2

TEL.03-3995-0772（業務用） FAX 03-3995-0680

TEL.03-3995-0612（代表）

E-mail: publicity@chihiro.or.jp

ちひろ いつもとなりに ― 子どもと動物 ―

＜同時開催＞生誕120年『てぶくろ』の画家ラチョフと民話絵本の世界

2026年3月1日(日)～5月10日(日)

ちひろ美術館・東京 展示室3・4

主催：ちひろ美術館



8
いわさきちひろ 窓辺の小鳥と少女
『ことりのくるひ』(至光社)より
1971年

いわさきちひろが描く、子どもと動物のやさしい世界

小鳥を遠くからそっと見つめたり、猫をぎゅっと抱きしめたり。

小さな生きものをいつくしむ子どもたちの姿を、やわらかなタッチで表現したちひろ。子どもと動物が心を通わせるようすを繊細にとらえた作品からは、ちひろが小さないのちに注いだやさしいまなざしが感じられます。

本展では、小鳥や犬、猫などの身近な動物とふれあう子どもたちを描いた作品を、ちひろの動物にまつわる思い出とともに紹介します。また、絵本や童話に登場するさまざまな鳥たちの姿にも注目します。子どもたちの日常によりそうように描かれた、愛らしいなかまたちの姿を、お楽しみください。

いわさきちひろ Chihiro Iwasaki (1918-1974)



福井県武生（現・越前市）に生まれ、東京で育つ。東京府立第六高等女学校卒。藤原行成流の書を学び、絵は岡田三郎助、中谷泰、丸木俊に師事。1950年松本善明と結婚。翌年長男猛誕生。子どもを生涯のテーマとして描き、絵本に『おふろでちゃぶちゃぶ』（童心社）、『あめのひのおるすばん』『ことりのくるひ』（至光社）『戦火のなかの子どもたち』（岩崎書店）など。



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

ちひろ美術館・東京

展覧会の見どころ

子どもによりそう、やさしい動物たち

気がつくといつもそばにいてくれる身近な動物たちは、子どもにとって相棒のような存在。本展では、子どもと動物のおだやかな日常を描いた中期童画を中心に、「子どものしあわせ」の表紙絵や、初公開作品を含む「こどものせかい」の原画を展示します。また、ちひろの後期の代表作のなかから、動物と子どもの情景をとらえた作品を紹介します。



9 いわさきちひろ 「はる」 1958年(初公開作品)



10 いわさきちひろ
猫を抱く少女と犬を見る少年 1964年



11 いわさきちひろ 「もうすぐはる」 1964年



12 いわさきちひろ 暖炉の前で猫を抱く少女 1971年



13 いわさきちひろと愛犬チロ アトリエにて 1971年

ちひろが愛した動物たちを紹介！

「動物を描こうと思うときは、まず犬、それも家にいる雑種の犬、つぎは猫」と語ったちひろのそばには、いつも動物がいました。娘時代に飼った猫のオバーモや、アトリエにいつもいたという愛犬のチロなど、ちひろの歴代のペットを写真資料も交えて紹介します。

絵本のなかの鳥たちに注目

絵本『ことりのくるひ』(至光社 1971年)をはじめ、『つるのおんがえし』(偕成社 1966年)や『青い鳥』(世界文化社 1969年)など、ちひろはさまざまな作品のなかで鳥を描いています。本展では、作中に描かれた鳥たちの姿に注目し、その魅力に迫ります。



14 いわさきちひろ
夜の国で青い鳥をつかまえるチルチルとミチル
『青い鳥』(世界文化社)より 1969年

出展作品数

作品 約 55 点と資料

※展示室 4 では、ピエゾグラフによる展示を行います。

図版について

本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。

ご希望の方は、別紙「広報用作品画像データ貸出依頼書 兼 借用誓約書」をご覧ください。

※必ず絵のそばに作家名・作品タイトル・制作年を明記してください。※トリミングや文字が絵にかかるようなレイアウトはご遠慮ください。

※データ等チェックのため、校正段階で原稿をお送りください。※掲載紙/誌をご送付ください。



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

ちひろ美術館・東京

chihiro.jp



お問い合わせ

広報担当 松方・原島・北村

〒177-0042 東京都練馬区下石神井 4-7-2

TEL.03-3995-0772 (業務用) FAX 03-3995-0680

TEL.03-3995-0612 (代表)

E-mail: publicity@chihiro.or.jp

展覧会関連イベント

ぬいぐるみお泊り会

日時：お預かりの会 3月28日(土)

お返し：4月4日(土)～10日(金)

参加費：500円(入館料別)

定員：10体

対象：中学生以下の方が

お持ちのぬいぐるみ

申し込み：要事前予約

(3/1より公式サイト、TELにて)

昨年好評だったお泊り会。少し内容をかえて、開催します。



にじみでこりを描いてみよう！

日時：3月29日(日) 10:30～15:30

定員：先着50名／参加費：500円(入館料別)

申し込み：当日申し込み(10時より受付、先着順)

ちひろの得意とした水彩技法で、小鳥を描いてみましょう。

講演会 ラチョフと絵本『てぶくろ』の魅力

日時：4月11日(土) 14:00～15:30

講師：松本猛(ちひろ美術館常任顧問)

参加費：1000円(入館料別)・オンライン700円

申し込み：要事前予約(3/11より公式サイト、TELにて)

生前のラチョフと交流のあった松本猛が、スライドを使いながら、絵本『てぶくろ』や彼の作品の魅力を語ります。

松本猛ギャラリートーク

日時：4月12日(日) 14:00～14:40

講師：松本猛(ちひろ美術館常任顧問)

参加費：無料(入館料別)／申し込み：不要

いわさきちひろのひとり息子・松本猛によるギャラリートーク。展示作品を見ながら、母・ちひろや、飼っていたペットとの思い出、展示の見どころなどをお話します。

会期中のイベント

わらべうたあそび

日時：3月7日(土) 11:00～11:40

講師：服部雅子

(西東京市もぐらの会代表、はとさん文庫主宰)

参加費：500円(入館料別)

対象：0～2歳児と保護者

定員：8組16名／申し込み：要事前予約

(2/9より公式サイト、TELにて)

リズムにあわせて体を動かしたり、声を出して歌ったり。物語への入り口となる「わらべうた」を親子で楽しみましょう。

いわさきちひろ
新聞紙で遊ぶあかちゃん
1967年

「子どもの権利」ってなんだろう？

日時：3月8日(日) ①10:45～12:00／②14:00～15:30

講師：一般社団法人Everybeing 小澤いづき 他

参加費：無料(入館料別)

対象：①5歳～小学生／②中学・高校生

定員：各回12名

申し込み：要事前予約(公式サイトにて)

子どもの権利について、絵をみたり、感じたことを話したり、館内を歩いたりしながら考えます。

手話通訳つき 対話型ギャラリートーク

日時：4月4日(土) 14:00～15:00

参加費：無料(入館料別)

対象：手話を主要なコミュニケーションの手段とする方(ろう者、難聴者、中途失聴者など)のほか、どなたでも

定員：15名

申し込み：要事前予約(3/4より公式サイトにて)

展覧会を手話通訳つきで対話しながら鑑賞します。

*本事業の鑑賞サポートは、「東京文化戦略2030」の取組「クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー」の一環でアーツカウンシル東京が助成しています。

ギャラリートーク

日時：第1・3土曜日 14:00～14:30

参加費：無料(入館料別)／申し込み：不要

展覧会の見どころや展示作品について担当学芸員が解説をします。

絵本のじかん

日時：第2・第4土曜日 11:00～11:30

参加費：無料(入館料別)／申し込み：不要

協力：NCBN(ねりま子どもと本ネットワーク)

季節や展示にあわせ、毎回テーマにそった絵本の読み聞かせを行います。あかちゃんから大人まで、どなたでもご参加いただけます。

次回展示予告

5月15日(金)～7月20日(月・祝)

いわさきちひろ

「とても素朴なんだけど大切なもの、それが絵本の中にはあるんです。」

ちひろ美術館コレクション

魔法の絵本=絵本の魔法

展覧会基本情報	
展覧会名	生誕120年『てぶくろ』の画家ラチョフと民話絵本の世界 ちひろ いつもとなりに 一子どもと動物ー
会期	2026年3月1日(日)～5月10日(日) ※会期は予告なく変更になる場合があります。 ○開館時間＝10:00～17:00 (入館は閉館の30分前まで) ○休館日＝月曜日(祝休日の場合は開館、翌平日休館) ※4/28～5/10は無休
入館料	大人1200円／高校生・18歳以下無料／団体(有料入館者10名以上)、65歳以上、学生の方は900円／障害者手帳ご提示の方とその介添えの方(1名)は無料／年間パスポート3000円
交通	○電車の場合＝西武新宿線上井草駅下車徒歩7分 ○バスの場合＝JR中央線荻窪駅より西武バス石神井公園駅行き(荻14) 上井草駅入口下車徒歩5分／西武池袋線石神井公園駅より西武バス荻窪駅行き(荻14) 上井草駅入口下車徒歩5分

※開館情報、会期、展示名、イベント内容などは予告なく変更する可能性があります。



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

ちひろ美術館・東京

chihiro.jp



お問い合わせ

広報担当 松方・原島・北村

〒177-0042 東京都練馬区下石神井 4-7-2

TEL.03-3995-0772 (業務用) FAX 03-3995-0680

TEL.03-3995-0612 (代表)

E-mail: publicity@chihiro.or.jp